

# 奈弓連だより

通巻 206号

平成 31 年 4 月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 野尻賢司 山本悦子

連絡先 : henshu@narakyudo.jp

## 第 1 回審査講習会開催

2019 年度の最初の公式行事の第 1 回審査講習会が、4 月 14 日に橿原公苑弓道場で行われました。主任講師に吉本清信先生、講師に須田先生、西浦先生にも途中から補助講師をして頂きました。参加者は 54 名で、今年度から、講習会を事前申込にさせて頂きました。申込制のおかげで、事前に講師の先生としっかりと計画を立てて講習会に臨むことができました。

午前中は本番さながらの一次審査の要領で一手行射を行い、的中者のみが午後の射礼研修に進めるという緊張感を持った行射を行いました。24 名の錬士受審者のうち 16 名が午後の持的射礼に進み、24 名の教士以上受審者のうち 12 名が一つの射礼に進みました。六段受審者 6 名と不中の錬士、教士以上受審者は射技指導をより多く受けられる内容にしました。

閉講式では、吉本先生から、「審査直前の射技指導は審査までに直せないこともあって辛い人もいるかもしれないが、直前の審査だけでなく将来の審査合格のためにも、気になったことはできるだけ指導しました。すぐの審査で出来ていなくても良いので、今後の課題にしてください。」とお話がありました。

午後は休憩が少なく長時間連続しての研修となり、講師の先生にご負担をおかけしてしまい運営として反省しております。一手行射のお二人の先生のメモ欄は全ての受講生に隙間が無いぐらいのメモが書かれました。講師の先生方の指導に応えられるよう、受講生の今後の審査の朗報を期待しております。



前射場で射技指導、後射場で射礼研修

(指導部 吉本清巳)

## 昇段おめでとうございます

橿原公苑弓道場で 3 月 21 日に開催された奈良県定期地連審査会において次の皆さんが四段に昇段されました。

松本雄介 (蒼穹会)

伊藤千貴 (県医大)

前川なつき (橿原)

おめでとうございます。

(事務局)

## 奈良県定期地連審査を 3 月 17、21 日に開催

3 月 17 日に橿原公苑弓道場と奈良市弓道場において 3 月 21 日に橿原公苑弓道場において、奈良県定期地連審査が開催されました。

それぞれの審査結果は次の通りです。

### 第 279 回定期審査 3 月 17 日 橿原公苑弓道場

級位 受審者 178 名 合格 168 名  
(1 級 51 名、2 級 101 名、3 級 16 名、現級 3 名)

### 第 280 回定期審査 3 月 17 日 奈良市弓道場

級位 受審者 167 名 合格 163 名  
(1 級 142 名、2 級 21 名)

### 第 281 回 定期審査 3 月 21 日 橿原公苑弓道場

初段 受審者 71 名 合格 62 名  
二段 受審者 30 名 合格 19 名  
三段 受審者 22 名 合格 9 名  
四段 受審者 18 名 合格 3 名  
(審査部 平木一史)

## 大和郡山お城まつり弓道大会

参段以下:1位は清水選手、最高得点賞は藤野選手  
四段以上:1位は東中選手、最高得点賞は佐藤選手

4月7日(日)、郡山城の桜が満開となる中、大和郡山市武道場弓道場において、平成31年度お城まつり弓道大会が開催されました。

はじめに須田大会会長より、「本大会も今年で第 15 回を迎えることになりました。今大会は、昨年まで (3頁に続く)

## 病後の私を支えてくれた弓友たち

33歳の時に、生死をさまよう大病を患い3か月入院し、退院後静養していましたが、1年余りたった頃、医師から体に負担のかからないスポーツを勧められ、奈良市弓道教室に入ることに。まだ体力も十分回復しておらず、休みがちな私を主婦仲間の同期生は、家まで誘いに来てくれました。同じ歳頃だったので、弓道以外でも子供達を連れて泊りがけで海水浴にも行きました。

その頃の協会はまだ人数も少なく新年会や合宿があり、和気あいあいの楽しい雰囲気でした。吉本先生が東北から奈良に戻ってこられた頃で、教室で座射の指導を受けていました。合宿の夜、吉本先生が「斎太郎節」を陽気に歌われるのを聞いたことがあります。普段見ることのない先生の姿、楽しい思い出です。また、わかさ国体では近的射場の放送を担当。人数が少ないために皆が力を合わせてやり遂げたという思い出があります。

そして40歳の時、夫の仕事の関係で神戸に転居しましたが、増田美和栄先生が神戸市弓道協会会長だった知己の谷宏先生宛に「野尻が奈良から行くからよろしく」との葉書を送られていました。

## アメリカでの全弓連講習会

1992年から3年間、夫の転勤でアメリカのインディアナ州へ。その州にはスエイン夫妻の手作り道場があり、月に1度ほど通うことに。あるとき、ご夫妻からアトランタでの全弓連の講習会に誘われ、通訳のお手伝いをすることに。大野博孝、浦上博子、矢吹三郎各範士が講師でした。アメリカ人受講生の熱心さに圧倒されました。現在サウスカロライナ州の会長のブラックウェルさんも参加されていました。1週間続いたこの講習会と審査会の間、先生方から、いろいろなお話をお聞きし、まだ五段でしたが、偶然、このような機会に巡り合ったことは幸せでした。

## 神戸では谷宏範士に師事し、妻手の大切さを学ぶ

阪神大震災後に帰国し、増田先生が葉書を書いて下さっていた谷宏範士に師事することに。谷先生からは弓を体で大きく引き分けること、妻手の大切さを指導されました。「弓返りを意識的にさせようとするな、大きく引けば弓は返る」といっておられました。「手では引くなと参考書に書いてある」と質問しますと、「手で引かなかつたら、どこで引くの？足で引くというのか？」との返事。とにかく「大きく引け」が口癖でした。そのおかげで、錬士受審時は大きく引き合格できたと思っています。その時の祝射会での写真をみますと妻手がコの字になるほど手繰っているのがよくわかります。ところが数年後、六段受審を前に、「その妻手引きでは六段は無理だ」と新たな課題を与えられました。

妻手引きの習慣が身につけていた私はこれ以降、手の力をどう抜くか悩み続けることに。現在も矢線に抜ける妻手が私の課題です。

神戸市の道場が不審火で焼失した時、教室同期生だった岡本ハツ子さんが誘ってくれ、奈良で練習させてもらうことに。吉本先生、須田先生、今川先生、新司先生にはお世話になり、有難かったです。谷先生は「奈良の人々との縁を大切に下さい」と常々話しておられたが、それが現実になったと思います。

先生が亡くなり、一か月後に私が六段に合格した時、乙矢は目通りまでの大ビクが出て引き直し、的中できませんでした。先生は「ビクがでて、今一度引き直せばよい」と言っておられたので、あの時は力を与えてくださったと今も思っています。とても気さくな性格で、練習後はいつも、弟子と一緒に喫茶店に行き、コーヒーを飲みながらよく弓談義をされました。

## 奈良に戻り、かつての先生方の指導を受けることに

谷先生も亡くなり、義母の介護のために、奈良に戻ることになり、かつての先生方に再び指導を受けることになりました。また、60歳を過ぎていましたが、教士だったために、県連および奈良市弓道協会のお手伝いをさせていただくことに。西浦先生が指導部長のときに指導部に入ることに。近畿指導者講習会に参加するなど、6年間多くのことを学ばせていただきました。

古希を迎えた主婦仲間は弓道教室卒業から37年の間にそれぞれの道を歩み、全員一緒に引く機会はなくなりましたが、今も大切な仲間です。東京での教士受審の際に、鈴木三成元会長が更衣室横の廊下で車座になって受審者と雑談を始められ、「弓は良き仲間と楽しんで引いてください」と話されたことがありました。その言葉を今、実感しています。弓道が、弓の仲間が私を支えてくれ、健康を回復でき、ここまで来れたと思います。



錬士合格祝射会。谷先生に「大きく引け」といわれていた頃。その後、「どこまで引くの？」といわれ始めます。

の採点制形式だけではなく、的中制形式も取り入れた  
いと要望もあり、予選は採点制、決勝は的中制に変  
更しました。実り多き大会となるよう皆さん頑張って  
下さい」との開会挨拶があり、つづいて採点審判員を  
務められる 吉本清信・西中正・阪中計夫各先生の紹介  
がありました。開会式後、3名の先生方に模範演武と  
して一つの射礼をご披露いただきました。

今年の参加者は参段以下の部が56名、四段以上が  
44名と作年を大幅に上回る参加を得て、大いに盛り上  
がりました。各部とも、的中1本以上の高得点者12  
名が決勝に進出し、一手3回の中数による順位決定  
に臨みました。参加された皆さんの射技・体配に対す  
る真面目な取り組みの姿勢が感じられました。特に四  
段以上の部での12名による決勝は射技・的中とも、見  
応えのある素晴らしいものでした。

閉会式で吉本清信採点審判員長より以下の通りの講  
評がありました。

◆審査に合格した人は、その時から合格した段位や称  
号にふさわしい修練が始まる。今回段位相当の得点  
(800点満点で600点)に満たなかった人はこの大会の採  
点結果を踏まえて、より一層の修練に励んでもらいた  
い。また採点制大会への参加はいい経験となるので  
今後とも頑張ってほしい。



四段以上の部で一位だった東中選手の予選時の会相

決勝進出者による競技結果(6射)は次の通りです。

#### 【参段以下の部】

- 1位：清水 美千代 (郡山) 5中
- 2位：藤野 沙羅 (奈良医大) 3中 (遠近競射による)
- 3位：竹内 洋 (郡山) 3中
- ・最高得点賞 藤野 沙羅 (奈良医大)

#### 【四段以上の部】

- 1位：東中 千佳 (橿原) 6中
- 2位：赤松 順次 (郡山) 5中 (遠近競射による)
- 3位：新子 修平 (五條) 5中
- ・最高得点賞 佐藤 峻 (郡山)  
(郡山支部 齋藤 文男)

#### 編 | 集 | 後 | 記

私も第1回審査講習会に参加しましたが、吉本先生、  
須田先生からは参加者一人ひとりに具体的なアドバイ  
ス、励ましの言葉をいただきました。ありがとうございました。

先輩からお借りした鹿毛誠一著「型から見た日本の  
文化」の中に参考になる文章がありましたので紹介し  
ます。「阿波と梅路の両師に『相對射』の用語がある。  
(中略) 文武の芸事では、自師賢覚がいわれることが  
多いが、『相對射』では独覚は警められている。弓道場  
で独りだけマイ・ペースで引けば、すぐ調子に乗れて  
面白い。しかし、他人の前で人と一緒に、あるいはチ  
ームの『立ち』を組んで練習する。マイ・ペース+α  
が本当の在りようである。『独覚以て、享樂となすは向  
上の死滅』とか、『独覚者死を將て求むるも顕現不可能』  
とまでいわれる。」まるで私のことを指摘されている  
ようで、反省しきりです。

編集担当 野尻賢司